

2004年度講演会・シンポジウムのお知らせ

関西支部 支部長 岡田 伸夫

大学英語教育学会関西支部事務局

〒615-8558 京都府京都市右京区西院笠目町6 京都外国語大学 相川真佐夫研究室

Phone: 075-322-6079(研究室) FAX: 075-322-6245(国際言語平和研究所・相川宛)

E-mail: aikawa@nnc.or.jp URL: http://www.ryukoku.seikyoku.ne.jp/home/87858/

振込口座: 00940-4-187715 大学英語教育学会関西支部

新秋の候、会員の皆様にはますますご健勝のことと拝察いたします。

さて、今年度の講演会・シンポジウムを下記の要領で開催たく存じます。奮ってご参加いただきますようご案内いたします。

記

<講演会>

日時: 2004年10月30日(土曜日) 13:00—14:15

場所: 千里金蘭大学 3号館9階 大会議室

講師: 小池 生夫 氏 (明海大学)

※講師プロフィールは、裏面をご覧ください。

演題: 「私が関係した英語教育政策35年の表裏」

概要: 裏面をご覧ください。

講師紹介・司会: 岡田 伸夫 氏 (大阪大学)

<シンポジウム>

日時: 2004年10月30日(土曜日) 14:30—17:00

場所: 千里金蘭大学 3号館9階 大会議室

テーマ: 「動き出した英語教育」

パネリスト: 小池 生夫 氏 (明海大学)

大谷 泰照 氏

(大阪大学名誉教授、

滋賀県立大学名誉教授)

豊田 昌倫 氏 (関西外国語大学)

※講師プロフィールは、裏面をご覧ください。

概要: 裏面をご覧ください。

司会: 岡田 伸夫 氏 (大阪大学)

参加費: 講演会・シンポジウムを含めて
会員500円 非会員 1,000円(学生500円)
事前申込みは不要です。当日お支払いください。

<夕食会> 時間:17:30—19:30

講師の先生方を囲み、秋の夜長に美味しいイタリア料理とワインで更に“シンポジウム”を続けませんか。

会場: レストラン アローラ ☎ 06-6877-8362

(千里金蘭大学より徒歩5分)

会費: 5,000円 事前のお申し込みが必要です。

同封の振込用紙にて9月末までにお申し込みください。

<交通アクセス>

□ 大阪方面から

梅田	約30分	北千里	約10分	本学
		阪急千里線		徒歩
梅田	約20分	千里中央	約10分	金蘭会 学園前
		地下鉄御堂筋線		阪急バス

□ 大阪モノレールから

大阪空港	約15分	山田	約3分	北千里	約10分	本学
門真市	約20分			阪急千里線		徒歩
		モノレール				



駐車場は狭いので、お車はご遠慮ください

小池生夫氏・講演概要

1960年代に JACET 活動に身を投じてから今日まで、JACET 活動を基にして文部科学省、東京都、千葉県さらに国際学会、国内英語教育団体との提携などの英語教育政策に携わってきた。私自身は一私学の英語教員である。しかし絶えず、在野の眼を持ち、日本人の国際活動の底辺を支える者としてのスタンスから、英語教育の専門家と政治の素人という立場から日本を憂い、危機意識をもって、小学校英語教育から大学英語教育まで発言をし、また直接政策に携わりつづけてきた。最後は「英語が使える日本人の戦略構想」の策定協力であった。これらを通して日本人、その社会的動きの本質、世界との連動という事態での特質をいささか肌で学んだ。政策に直接関わってくる表と裏の顔をこれからは語り部として語っておきたい。

シンポジウム「動き出した英語教育」要旨

今世紀に入ってから英語教育にかかわる重要な提言が矢継ぎ早になされてきました。2000年1月には「21世紀日本の構想」懇談会(河合隼雄座長)が最終報告書を提出し、「これまで混同されてきた二つの教育を峻別し、『義務としての教育』は最小限のものとして厳正かつ強力に行う一方、『サービスとしての教育』は市場の役割にゆだね、国はあくまでも間接的な支援を行うことにすべきである。」「英語が事実上世界の共通言語である以上、日本国内でもそれに慣れる他はない。第二公用語にはしないまでも第二の実用語の地位を与えて、日常的に併用すべきである。」などの大胆な提言を行いました。

また、2001年1月には「英語指導方法等改善の推進に関する懇談会」(中嶋嶺雄座長)が、その報告書で、「国民全体に求められる英語力と専門分野に必要な英語力や国際的に活躍する人材などに求められる英語力は、目指すべき目標、内容・程度が異なっており、これらを分けて対応策をとる必要がある。」「教員が授業を英語で行うことは、生徒・学生に好影響を及ぼすので、一層推進すべきである。」などの提言を行いました。

また、2002年7月には『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想が、さらに、2003年3月には『英語が使える日本人』の育成のための行動計画が明らかにされました。行動計画は、英語力を国民全体に求められるものと専門分野に必要な英語力や国際社会に活躍する人材等に求められるものに分けました。さらに、英語力の目標値を中学校卒業段階では英検3級程度、高等学校卒業段階では英検準2級～2級程度と決めました。英語教員には英検準1級、TOEFL550点、TOEIC730点程度以上の目標値が定められ、昨年から5カ年計画による集中的研修が実施されています。

その間、2002年9月には、構造改革特区推進本部により構造改革特区推進のための基本方針が決定され、多くの特区で学習指導要領の範囲を超える新しい英語教育が可能になりました。たとえば国際都市「あらかわ」の形成特区は「学校教育において、小学校第1学年から全学年の教育課程に教科として「英語科」を位置づけて、さらに中学校の英語科の時間数の拡充と内容の充実を行い、小・中一貫の英語教育を実施する」ことを計画し、京都市小中一貫教育特区は「中学校教員が保有免許教科について小学生を指導することにより、小学校高学年における教科担任制の導入や、習熟の程度に応じた指導をさらに推進・充実し、「小学校5・6年で「英語科」、中学校1年で「英語表現科」を創設し、中期教育段階において両科目を系統的・継続的に指導する」ことを計画しています。

このシンポジウムでは、(1)『英語が使える日本人』の育成のための行動計画の実施、(2)構造改革特区における小学校英語教育の導入、小中一貫教育の実施、(3)今、大学英語教育に求められているもの、という三つのテーマを取り上げ、小池生夫教授、大谷泰照教授、豊田昌倫教授にいろいろな角度からお話いただきます。それをもとにフロアの方を交えて活発に意見交換したいと思います。

講師プロフィール

小池 生夫(こいけ いくお)

明海大学外国語学部長、大学院応用言語学研究科長、慶應義塾大学名誉教授

Georgetown University 大学院博士課程応用言語学専攻(PhD)、東京都立日比谷高校教諭など10年、慶應義塾大学経済学部教員約30年、明海大学大学院応用言語学研究科を創設(8年)、現在博士5名、修士60名。この間38年にわたり JACET の興隆、国際学会活動、日本の英語教育改革に献身。「応用言語学事典」編集主幹(研究社、2003)など。

大谷 泰照(おおたに やすてる)

大阪市立大学卒業 桃山学院大学、関西大学、大阪大学、滋賀県立大学各教授を経て、現在は大阪大学名誉教授、滋賀県立大学名誉教授 言語教育政策専攻

豊田 昌倫(とよた まさのり)

京都大学大学院博士課程修了、ロンドン大学留学。現在、関西外国語大学教授・国際文化研究所長。京都大学名誉教授。JACET 理事。近代英語協会会長。日本英語学会理事。英語学、英語文体論専攻。主な著書:『英語のスタイル』(研究社)、『英語表現をみがく―動詞編・名詞編』(講談社)、Aspects of World Language (Maruzen)、『言語学と小説』(紀伊國屋書店)、『英語文体論辞典』(三省堂)